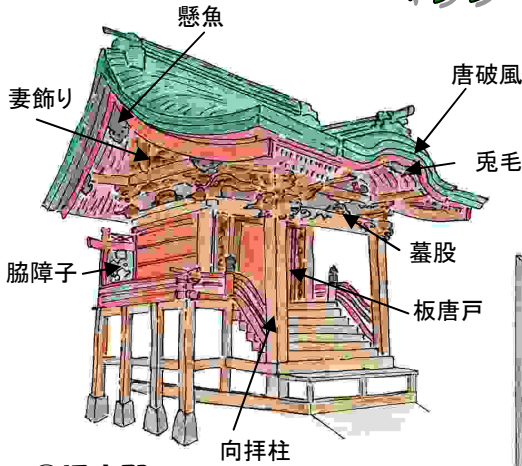


調神社

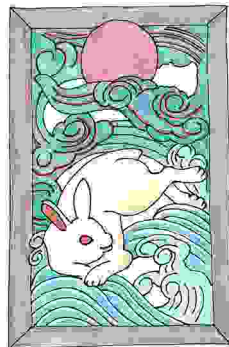
マップ



調神社 (つきじんじゃ)

- ・調宮縁起には崇神天皇(第10代)の勅創とあり、他書でも開化天皇(第9代)の御代の創建とある。
- ・延喜式神明帳には「調神社」の名がある。式内社。
- ・平田篤胤の調神社考証には、伊勢神宮の御調の初穂を納める倉庫から発展した神社とある。鳥居がないことの理由とされる。
- ・調氏一族が祀った神社ではないかという説がある。
- ・このあたりを中世に大調郷と呼んでいたという。
- ・大きな槻(つき・けやきのこと)を意味するともいう。
- ・月待供養が盛んだった中世には、月宮殿に擬せられた。
- ・境内林・・・樹齢数百年の古木林。
- ・七不思議・・・鳥居がないこと、狛犬でなく兎像があること等。

- ・祭神・・・天照大御神
豊宇気姫命
素盞鳴尊



脇障子(左)

⑫旧本殿

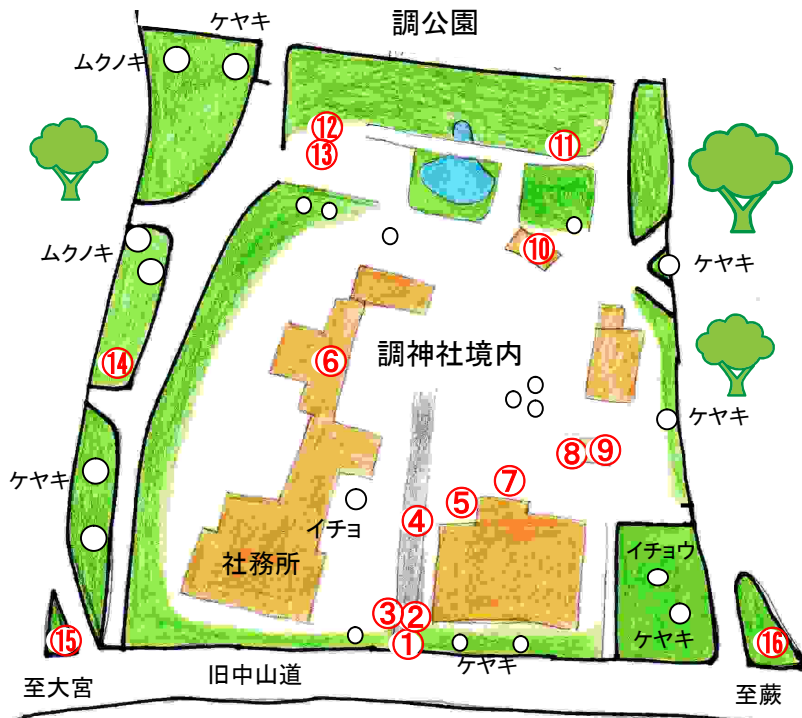
享保18年(1733)建立。現本殿が竣工するまで本殿として使われていた。一間社流造り。波を蹴る兎の彫刻も複数あり。

⑪長谷川かな女句碑

昭和28年建立。波乱に富んだ人生を歩んだかな女は、昭和3年浦和岸町に移り住み、後に句誌「水明」を創刊・主宰することになった。「生涯の影ある秋の天地かな」は自筆である。「秋」は「舛」という書き方をしている。

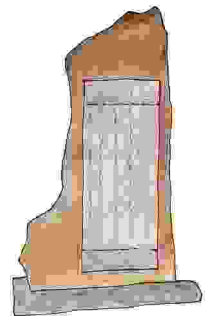
境内案内

- ① 兎像
- ② 「県社延喜式内調神社」標柱
- ③ 門柱
- ④ 石灯籠
- ⑤ 手水舎
- ⑥ 社殿
- ⑦ 白雲堂無相句碑
- ⑧ 天神社
- ⑨ 金刀比羅社
- ⑩ 神楽殿
- ⑪ 長谷川かな女句碑
- ⑫ 旧本殿
- ⑬ 久久能知大神石碑
- ⑭ 昭和天皇御成婚記念碑
- ⑮ 浦和耕地整理完成記念碑
- ⑯ 駒つなぎの櫓
- ⑰ 境内林(境内全体)



⑦白雲堂無相句碑

文政8年(1825)建立。玉蔵院24世で、当代一流の連歌師である白雲堂無相の「かみさびしこかげやつきのみやどころ」と浦和の俳諧連に属す、以中坊ら3人の句が刻まれている。



無相句碑

①兎像

万延2年(1861)板橋宿 石工兼吉作。明治になり神仏分離令がだされ仏教系のは玉蔵院に移された。この兎像一対も移されたが、戦後調神社に戻されたとい

⑥社殿

安政6年(1859)9月竣工。総ケヤキづくり。本殿、幣殿、拝殿が連続する複合社殿。本殿は余すところなく浮き彫りの精緻な彫刻がはめ込まれている。拝殿向拝の竜の彫刻は、幕末江戸の名匠島村俊表の作。寄進額1850両4分。